資料１

平成 29 年度第１回市民部会　会議のまとめ

平成 29 年度第１回市民部会では、平成 28 年度第３回市民部会で提案のあった普及啓発の取り組みについて意見交換を実施しました。今回の会議では、茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルとの連携による普及啓発活動の実践に向けて、具体的な内容や調整が必要な事項等について検討します。

１．主な意見

①茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバル

項目	意見・提案
市民への理解促進	➢ 視覚障害者団体の活動等の発表の場を設ける。 ➢ 点字体験や誘導体験等を実施する。 ➢ 車椅子レクダンス普及会「矢車草」によるステージを設ける。 ➢ ボランティアを募り、運営側としての参加を促すことにより理解促進を図る。 ➢ 自然に楽しみながら、健常者と障害者が触れ合うことが効果的な理解促進である。
集客方法	**市民** ➢ スタンプラリーの実施と併せて景品等を準備し、親子連れを中心とした集客を狙う。 ➢ 障害者に対する「気付き」が目的であれば、健常者の参加を促すことが必要。 **障害者** ➢ 社協のボランティアグループの協力を得られれば、会場においてのバリア低減につながり、参加しやすくなる。 ➢ 企画内容の見せ方として、「これは参加できない。」と思わせないような工夫や、会場レイアウトの工夫が必要。
継続・展開	➢ 健常者が障害者に対してどう思っているのか等のアンケートを実施することで、気付きのきっかけとなる。 ➢ 障害者が「出かけてみたい」と思うことに対するアンケートを実施することで、今後の取り組みの参考とすることができる。
全般	➢ ユニバーサルスポーツフェスティバルは全ての市民が対象であるため、参加者の特定をすることは難しい。 ➢ 総合体育館は予約が非常に多いため、新たに場所を増やすことは難しい。第一体育室内でのレイアウト変更（例えばバトミントンスペースの整理）であれば可能性はある。 ➢ このようなイベントに参加したいと考えている障害者は多く、連れ出してくれる人がいないために参加できないということが一番の理由。 ➢ 社協のボランティアグループへの声掛けは可能であるが、あくまでもボランティアであるので確約はできない。

項目	意見・提案
	➢ 今回はスポーツをとおして出来ることは何か、ということを明らかにし、以降段階的に課題を解決していく。 ➢ 複雑に考えすぎず徐々に理解を深めていければよい。障害者が「そこに行けば楽しい。」と思える空間づくりが必要。 ➢ 「外出頻度が低い」という原因が、設備に関することやアクセスに関することなど、現状把握が必要である。 ➢ 今回はスポーツをテーマとしているが、スポーツを目的には外出しないといったことも考えられる。

②おしゃべりサロン

項目	意見・提案
全般	➢ 障害者には落ち着いた環境が必要であるため、ユニバーサルスポーツフェスティバルとの同時開催は好ましくない。 ➢ サロンではなく、体育館ロビーにおいてパネルを使用した協議会の活動等の広報も効果がある。 ➢ 将来的には市民学び講座を利用してサロンを実施できればよい。